

議 事 録

議 題	令和7年度一般社団法人東京都中小建設業協会との意見交換会	
日 時	令和7年12月24日(水)10:00～12:00	
場 所	東京都中小建設業協会	
出 席 者	■一般社団法人東京都中小建設業協会	6名
	□東京都住宅政策本部	7名
議 事 内 容		
1 挨拶・自己紹介		
2 議題		
(1) 令和7年度の入札状況と今後の発注予定について		
<input type="checkbox"/> 今年度の発注件数は、取り下げや入札不調等を含め17件となっている。昨年度は公共工事の受注環境が厳しい状況だと伺ったが、最近の傾向や民間工事との関係についてどのように捉えているか。		
<input checked="" type="checkbox"/> 今年度の民間工事については、依頼件数が多く、案件が重なっている状況である。一方で、建設費や労務費の上昇により、中小企業が対応できる規模の住宅建設工事では採算確保が難しくなっている。来年度以降、中小企業の受注が減少するのではないかと懸念をもっている。		
<input checked="" type="checkbox"/> 財務局案件を含む都の案件は、入札不調の発生率は低下しているものの、依然として高い水準にある。労務費改定の反映や、単価と歩掛を一体で見直すことが、課題解決に向けて必要だと考える。小規模案件と大規模案件で単価を柔軟に補正することについても検討していただきたい。		
<input checked="" type="checkbox"/> 公共工事は提出書類が多く、修正指示も多いことから、同規模の民間工事と比較して多くの人員を要すると認識している。		
<input checked="" type="checkbox"/> 労務単価の補正や週休二日制の導入は大きな制度転換であると受け止めているが、現場の実態や働き方との乖離が生じている面もある。実態に即した運用について検討をお願いしたい。		
<input type="checkbox"/> いただいたご意見は、貴重なご意見として関係部署へ共有させていただく。		
(2) 技術者の人材確保・育成について		
①熱中症対策について		
<input type="checkbox"/> 屋上防水工法については、費用及び耐久性の観点から、現行はアスファルト防水を採用している。一方で、夏場における施工環境が厳しい実態については認識しており、工法変更についても協議により対応している。		
<input checked="" type="checkbox"/> 工法変更の協議において、同等品の証明を求められることが多いが、何をもって同等とするかが明確でないと感じている。そのため、協議しても採用が難しいのではという印象がある。		
<input checked="" type="checkbox"/> 躯体工事についても、夏場は作業効率が低下するため、歩掛や経費の補正について検討してほしい。		
<input type="checkbox"/> すべてを画一的に指針化することは難しいが、現場ごとの協議により対応している。		
<input checked="" type="checkbox"/> アスファルト防水採用の根拠として、比較データや実績などを示してほしい。		
<input checked="" type="checkbox"/> 冷工法については職人の技能に依存する面があり、品質に差が生じやすい。技能を担保する仕組みの検討や、必要に応じて発注者側の費用負担についても検討が必要ではないか。		
<input type="checkbox"/> いただいた意見を踏まえ、過去の実績等について改めて確認し、整理していく。		

②技術者の兼務について

- 監理技術者補佐(専任特例等)の制度については、条件次第ではあるが建築工事でも適用可能である。
- すべての工事での適用が難しいことは承知しているが、技術者不足が深刻な状況であるため、適用要件の運用を柔軟にしてほしい。
- 総合評価方式において、監理技術者として登録すると、育児休業等の休暇を取得しにくい運用となっている点が実務上の課題である。同等レベルの技術者であれば変更を認めてもらいたい。
- 事情については理解しており、財務局を含む関係部署と情報を整理し、共有していく。

(3) 現場管理のDXについて

①遠隔臨場について

- DX推進の一環として遠隔臨場に取り組んでおり、実施要領(案)をホームページで公開している。どのような工事が適しているか分類し、実際の事例や課題を掲載しているため、参考としていただきたい。
- 想定される効果は主に時間短縮か。現場の評価はどのようなものか。
- 時間短縮の効果は大きい。現場からは実際の運用を不安視する声もあるが、実施した現場からは高い評価を受けたところもある。
- 取組を進めていく必要性は理解しているが、受注者側の負担が過度に増えない運用としてほしい。コロナ禍の対応では、遠隔での立会がかえって負担となった経験がある。
- その点については認識しており、過度な負担とならないような運用としたい。

②書類削減について

- クラウドサーバーを活用して書類等をアップロードし、都側が随時確認できる仕組みがあれば効率化につながると考えている。また、都側においても、書類や手続きを簡素化し、将来的にはペーパーレス化を進めることが望ましい。
- 書類様式の削減・簡素化に向けて全庁的に取組んでおり、ご意見を参考にしながら進めていきたいので、具体的にどの書類が負担となっているのか、教えてほしい。また、ASP(情報共有システム)の活用を進める上で、何か課題があれば教えてほしい。
- ASPの活用実績が少ないため、都側の状況も知りたい。
- 島しょ部の現場や電気工事の現場での事例がある。
- 仕様書等への明記や、受注者アンケートの実施を行っていただければ取り掛かりやすくなると考えている。

③業務効率化について

- 内装工事の木工事については、内装プレハブ工法又は在来工法に限定する必要があるのか疑問に感じている。技術者不足や外国人技能者増加が背景にあり、軽量鉄骨やボードなら取り組みやすいと感じているが、選択肢に加えることはできないか。

(4) 都営住宅へのBIM(Building Information Modeling)の活用について

- 12月17日付で「都営住宅BIMガイドライン」を公表した。まずは設計段階から取組み、将来的には施工段階においても活用を検討していきたいと考えている。
- 設計者を主な対象としたものか。BIMデータは図書の一部として活用するイメージか。
- その通りである。BIMデータは図書の一部として位置付ける想定だが、必須とするものではない。

- AI の発展により、BIM の在り方がどう変わっていくのか関心を持っている。
- DX の一環として、今後の動向を注視し、検討する。

(5)その他

- 技術者育成や魅力ある職場づくりについて、現場の実態を共有してほしい。
- 担い手不足は避けられない状況であり、新卒・中途とも採用が厳しく、4年制大学の学生は中小企業ではほぼ採用できないのが実情である。専門学校では留学生が半数程度を占めており、公共工事では、外国籍人材でも対応可能だが、民間工事ではなかなか受け入れてもらえない。業務効率化やDXを進め、仕事の魅力や誇りを発信していくほかないと考えている。また、初任給が相対的に低い点も課題で、書類の修正のような仕事が成長を埋没させてしまっているという意見もある。
- 外国籍人材の採用については、語学が最大の課題となっている。細かなニュアンスの伝達が難しく、現場の整理整頓やマナー等の面でも課題があり、品質管理の負荷が増えている。
- 貴重なご意見として受け止め、今後の参考とさせていただく。
- 外構工事について、分離発注してほしいという趣旨ではないが、建築工事に含まれると採算面で不利になりやすいと感じている。実勢に応じた積算・発注を検討してほしい。また、落札率については、企業努力や見落としに起因する可能性があるため、率にかかわらず予算単価は維持してほしい。
- 関係部署と情報共有を行い、改善に向けて検討する。